

残暑もようやく薄らぎ、仲秋の頃となりました。

檀信徒各位には、お元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。

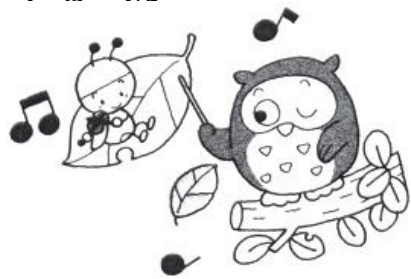
先日「今年もサルスベリの木は、いっぱい花をつけていますか」と、わざわざ御殿場の方から

問い合わせの電話が入りました。

この時期には、こういう場所に行けば、こんな景色に出会えるという覚え書き帳でも書いておられるのでしょうか。

当寺には、小田原市の天然記念物に指定されたカヤの木の他に、立派なみごたえのある樹々が沢山あります。

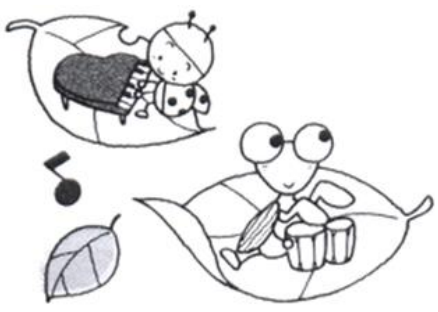
一時、森林浴という言葉を目にしたり耳にしましたが、山門から一步、境内に足を踏み入れるだけで、自然の力や自然の恵みを感じられることをありがたく思います。



この八月、妻も古稀を迎えました。

両親、姉弟と共に暮らした年月より、妻と暮らした年月がはるかに上回り互いの顔にきざまれた皺や衰えていく体力に、時の経過を思う日々であります。それまで私達夫婦の会話の中心は、いつも子供達が多かった様に思われますが、それらが孫達の成長のエピソードに移って、久しくなります。なかなかの利かん気や癩癩持ちの所は、娘達・親の性質というよりも、どうもジイジである私の血を継いだようです。

五人の娘達の誰一人、興味を示さなかつた趣味の手芸も、孫は大好きで、バアバである妻の傍で机を並べ、いろいろなことを教えてもらったりしているようです。「お父さんに似ているネ」「お母さんゆず



一口伝導板

○仏に生きる人

—長田恒雄氏の詩—

こころして 言葉を使おう

つねに気もちをととのえて

よこしまなことはしまい

この姿勢で せめて

私自身を浄めていこう

おぼつかないけれど

それで 道に近づきたい

○風のごと 月のごとくに

往きゆいて

一期一会の いのち尊し

りかも」と娘達に言われるたびに、ご先祖とその子孫のつながりを思います。そしていとこ同士である孫達がふとした折にみせる表情に、似通っている所をみつけたりすると、性質や天分など生まれながらのものはもとより、私達の顔や身体の特徴はみな親、祖父母、曾祖父母・と先祖の遺伝によるものであることに、改めて気づきます。私達の生命のものは、一代や二代のものでなく、それこそ遠い先祖から受け継がれてきた生命であることが、こんなことからわかります。

ご先祖さまとは、私の生命の根源であり私のいのちそのものであるということに、思いが至った時、それだからこそ、生命の尊さ、ご先祖さまがありがたく、報恩感謝の思いを込めて、ご供養の手を合わせずにはいられないのです。

お寺から

○ありがとうございます。

― 勤労奉仕 ―

お盆を前にした八月六日。墓地・境内地の整掃を、皆様に声掛けをして、朝八時より御奉仕いただきました。

台風が接近しているとのことで前日の夕刻空を見上げては「朝のいつときでも、晴れてくれたらいいけれどナア」などと心配したところが、恥ずかしくなるような上天気で、熱中症などの心配もあり、45分と時間を切つての整掃作業となりました。

道路沿いの境内および山林には、ジュース缶をはじめ、いろいろなゴミが投げ込まれており、驚く程のゴミが収集されました。

遠く、大宮からお墓参りを、この日に当ててお手伝い下さった木口さん、八十八才の御高齢にもかかわらず、お元気に御参加下さった篠崎さん。

操、一寸木治久、一寸木和広、小泉直人、磯崎恵美子、磯崎スエ子、小泉一義、高橋信一、一寸木操、一寸木健一、小林敏江、篠崎君江、谷内久美子、磯崎貴子、杉山弘一、鈴木直幸、一寸木重美、小野英敏、杉山博倫、小宅康友、下田泰信、下田理恵子、一寸木昭司、小石川啓輔、山崎義明、遊佐玲子、神保博子、杉山哲、山崎憲昌、小泉正章、一寸木将都、篠崎時光、小泉義之以上です。（敬称略）
ありがとうございます。



多いに、皆さんの士気の高めていただけ、感謝する次第です。

整掃が終わった後、お寺で用意した心ばかりのお礼の気持ちのかき氷や冷たい飲み物で喉をうるおしていただきながら、久らくの歓談タイムとなりました。

御参加いただいた皆さんが、楽しそうに時を過ごしておられるのを見て嬉しく思いました。皆が集い、こうして同じ目的のもとに汗を流し、笑顔で語り合う・・本当におだやかな優しい一日でした。ご奉仕いただいた方々の御芳名は

一寸木松江、鈴木タミ子、一寸木和子、小林誠、杉本勝巳、磯崎美範、木口康恵、松永恵子、一寸木勝男、一寸木誠一、高橋光成、磯崎繁幸、一寸木ハナ子、勝又晴美、磯崎初男、杉本光昭、一寸木正治、一寸木雅明、鈴木郁子、杉本十三子、松永ミナ、松永久雄、宮川雄太、宮川智子、小野清、杉山金治、小泉

― 永代供養の話 ―

ひと昔前までは、自分のつれあいや子供を永代供養にするという、無縁さんになると混同する人もいて、なかなかその意味あい理解してもらえませんでした。

しかし今、核家族化、人口減少の世相の中、お墓を守っていくことを危惧される方が多くみられるようになりました。

「自分達がいなくなったら、お線香やお花を手向ける人がいなくなつて今までの生きていた証がなにもない。全てのことが虚しく思われる」と考えられる方もいて、当寺の永代供養建立につながりました。

当寺では、毎日の勤行の中で、その永代供養の方々の安寧をよみこませていただき、御仏飯やお水など、供養を怠りなくやっています。

総世寺が存続する間は、永劫までお寺で管理、お護りするようになっていきます。

どうぞ御安心下さい。

ホームページを開設して総世寺の寺史、概略やお寺の活動状況などの他に永代供養墓の紹介もしており、それをみた人達から多い時は一日に十件近くのお問い合わせがあります。御希望の際は、永代供養をなさった方も年回法要をお受け致しますし、護寺会費をいただかないということだけで、一般のお墓をおもちの檀家さんと区別のない対応となっております。お墓のことなど、疑問に思われることがあります。したら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

報謝御和讃

- (一) 一樹の蔭の宿りさえ
人の情に宿借りて
- (二) 一河の流れ掬むにさえ
真心こもる熱き茶に
- (三) 一期一会の人の世は
み篤き今日のおもてなし

奇しき縁と知るものを
暫し休ろう嬉しさよ
深き恵と知るものを
疲れを癒す有難さ
尊きものと知るものを
いかで忘れん諸共に



